# 取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

Fit

## 助手席回転シート車

*このたびはHonda車をお買い上げいただき、*
*ありがとうございます。*
*この取扱説明書は、Fit 助手席回転シート車に*
*装備された専用機構の取り扱いについてのみ説明してあります。*
*その他の内容については Fit 取扱説明書をご覧ください。*

## 安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

**⚠危険**
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

**⚠警告**
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

**⚠注意**
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

## その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

**アドバイス**
お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、
異常事態の処置方法を記載しています）

**知 識**
知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

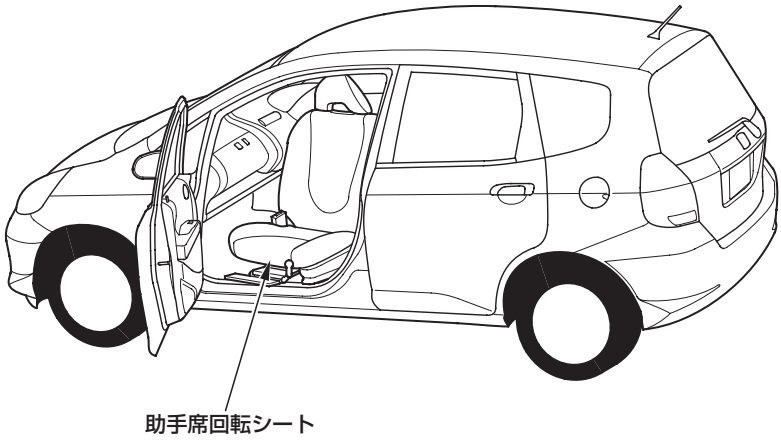
# もくじ

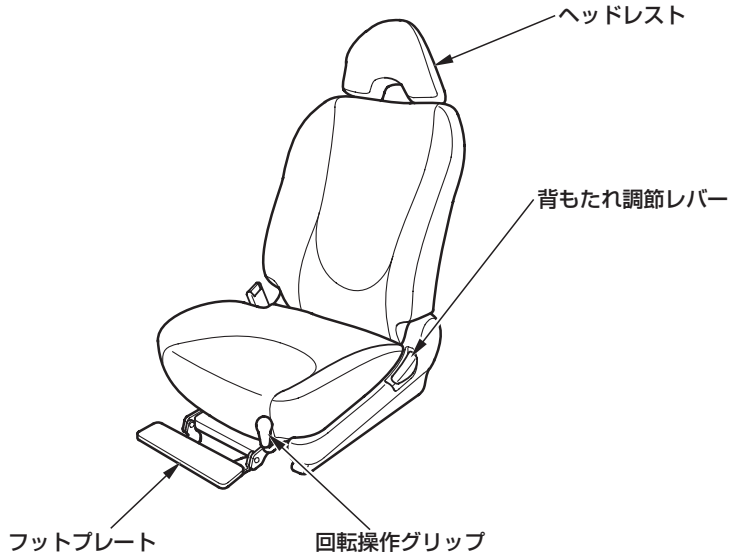
**各部の名称**‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 3

**安全ドライブのための必読ポイント**‥‥‥‥‥‥ 4

**装備の使いかた**
助手席回転シート‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 6
フットプレート‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9
カーゴスペースの作りかた‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥10
フラットシート(前後席フラットモード)‥‥13
助手席への乗り降り‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥14

# 各部の名称

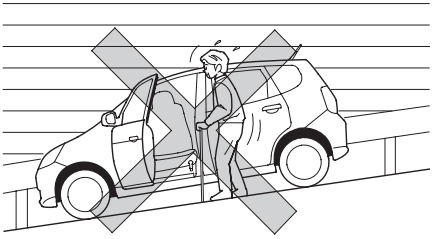


# 安全ドライブのための必読ポイント

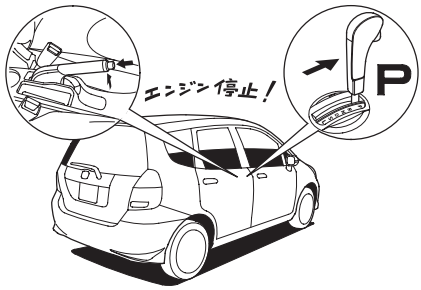
### 坂道での乗り降りの操作はしない。

- 助手席回転シートの操作は必ず平坦な場所で行ってください。
  坂道で乗り降りすると、姿勢が不安定になり、転倒や落下などにより思わぬけがをすることがあります。



### 操作するときは、エンジンを止めて。

- 助手席回転シートを操作するときは、パーキングブレーキをかけて、必ずエンジンを止めましょう。
  オートマチック車は、セレクトレバーを[P]に入れましょう。
  不意に車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

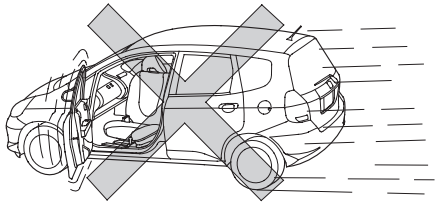


**操作は介助する人が行う。**

- 操作は、道路状況や助手席回転シートの周辺にも注意し、介助する人が行ってください。
  操作を誤ると思わぬけがをすることがあります。

**シートを回転したままでの車の移動はしない。**

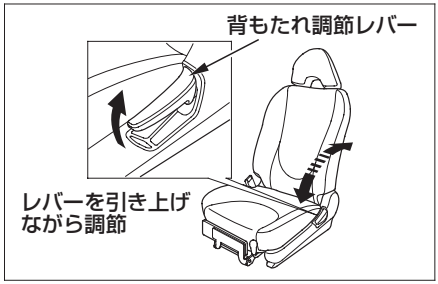
- 助手席回転シートを回転したままでの車の移動は、シートや車両が破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



# 装備の使いかた

## 助手席回転シート

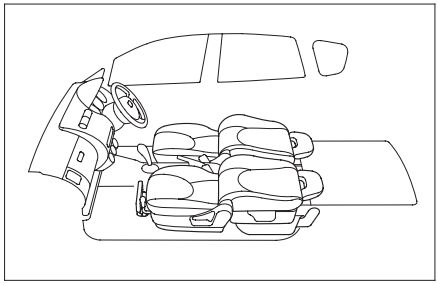
### ●背もたれの調節




**前席フラットモード**

リヤシートを格納した状態で、背もたれを倒すとフロントシートをフラットにすることができます。

カーゴスペースの作りかた　→10ページ



## ⚠注意

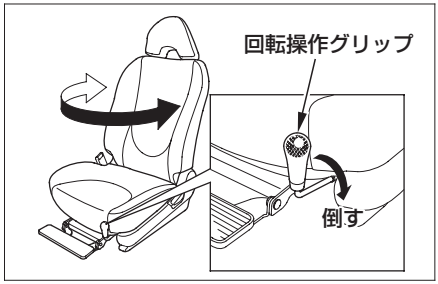
- フラット状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しないでください。ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フラット状態で、シートの上を走り回らないでください。
  また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。
  シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

### 知 識

- フラットにしたときや元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

### ●回転のしかた

矢印の方向へ回転操作グリップを倒してシートを回転させます。




助手席への乗り降り　→14ページ

### ●ヘッドレストの調節

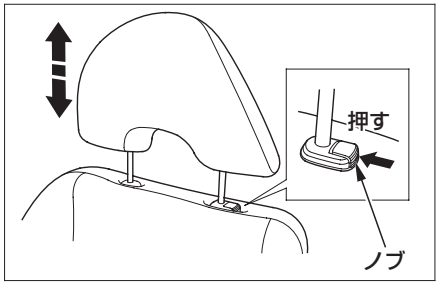
走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。

背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。

低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

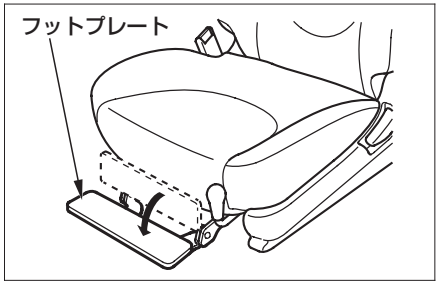



**⚠警告**

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず正しい位置に調節してください。

## フットプレート

前に倒して使用します。
回転シートの操作中は、介助される人の足を置いてください。




**アドバイス**

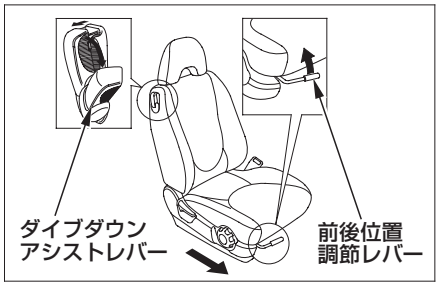
- フットプレートが破損するおそれがありますので、次のことをお守りください。
  - ・フットプレートに必要以上に体重をかけたり、ステップの代わりにしないでください。
  - ・走行中にフットプレートに足を乗せていると、必要以上に体重がかかることがありますので、フットプレートは必ず収納(折りたたむ)してください。

## カーゴスペースの作りかた

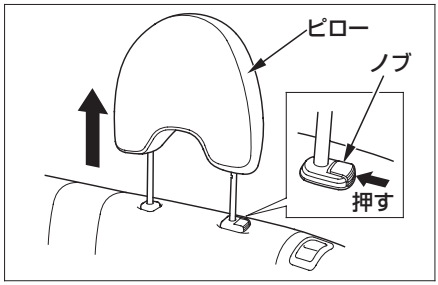
リヤシートを格納するとカーゴスペースを広くすることができます。
片側ずつ独立して行えます。

### ●格納のしかた

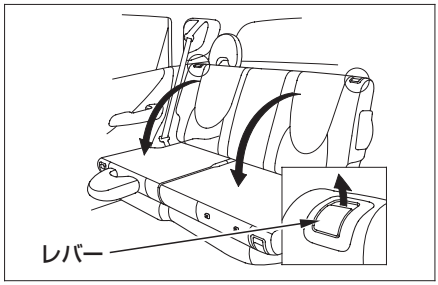
①前後位置調節レバーを引き上げながら運転席シートを前方いっぱいに動かします。
またはダイブダウンアシストレバーを外側に引いて、そのまま前方に回転させながら、運転席シートに手を添えて前方いっぱいに動かします。




②ノブを押して助手席側リヤシートのピローを取り外します。



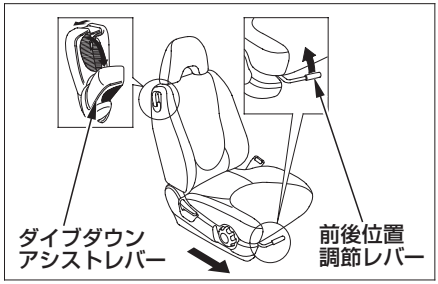

③床に荷物などがないことを確認し、リヤシートの背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを静かに前に倒します。



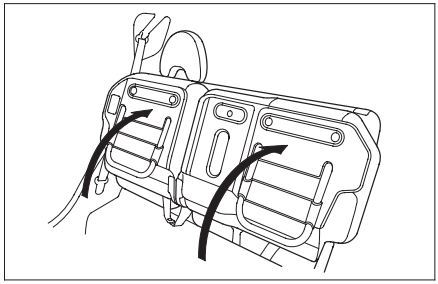

④運転席シートの前後位置を調節します。

## ●戻しかた

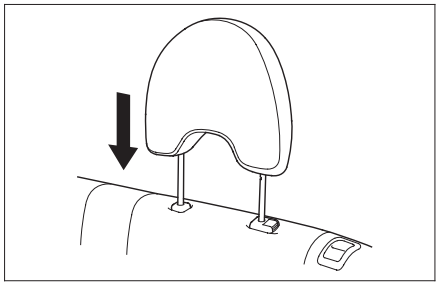
①前後位置調節レバーを引き上げながら運転席シートを前方いっぱいに動かします。
またはダイブダウンアシストレバーを外側に引いて、そのまま前方に回転させながら、運転席シートに手を添えて前方いっぱいに動かします。



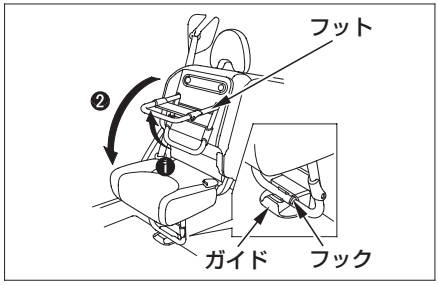

②背もたれを起こし、後ろへ押しつけて固定します。
このとき、背もたれにクッションが付いてくることがあります。



③助手席側リヤシートにピローを取り付けます。



④フットをいっぱいに開いてから(❶)、シートクッションを静かに前方に倒して、フットをガイドに入れます(❷)。
ガイドからフックが出ていることを確認します。




⑤運転席シートの前後位置を調節します。

## ⚠注意

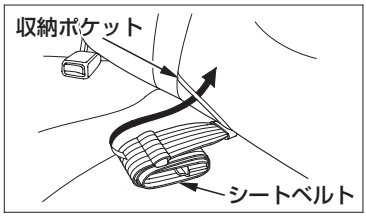
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 格納したリヤシートの背もたれの上やカーゴスペースには人を乗せて走行しないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- シートを元に戻すときは、ガイド周辺に荷物や異物がないこと、フロアマットがズレてガイドに乗り上げていないことを確認して、フットをガイドに入れてください。
  異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんと入っていないとシートが確実に固定されず、走行中にシートがはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

## 知 識

- 運転席シートの前後位置調節は、シートに乗員がいないときに調節してください。
- フロントシートの背もたれを後ろに倒したり、シートバックポケットに物が入ったままリヤシートを格納するときは、ピローがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。
- シートを格納するときは、シートの下に物やシートベルトを置いたまま操作しないでください。
- シートクッションを元に戻すときは、前に倒れ込むので手を添えて操作してください。
- フットを格納した状態でクッションを倒さないでください。
- 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしましょう。はさまれると正しく着用できません。
- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

知 識

●左側のシートを格納するときは、あらかじめ中央の二点式シートベルトを収納してください。




## フラットシート（前後席フラットモード）

運転席側のみ前後席フラットモードにすることができます。
助手席回転シートは前席フラットモードにすることはできますが、前後位置の調節ができないので、前後席でのフラットモードにすることはできません。

前席フラットモード　→6ページ

フラットシートの詳細に関してはFit取扱説明書を参照してください。

## 助手席への乗り降り

### ⚠注意

- 助手席回転シートの操作を誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。次のことをお守りください。
  - ・シートの操作は平坦な場所で、周囲の安全を十分確認してから行ってください。
  - ・パーキングブレーキをかけて、必ずエンジンを止めてください。
    オートマチック車は、セレクトレバーを[P]に入れてください。
  - ・シートを操作するときは、グローブボックスが閉じていることと、助手席サンバイザーが格納されていることを確認してください。
  - ・シートの回転操作は介助する人が行い、手や足などをはさんだりしないように十分注意してください。また、お子さまには操作させないでください。
  - ・シートを回転した状態で、車の移動はしないでください。
- 介助される人が背もたれの角度を調節しているときは、ドアを閉めないでください。
  手をはさんでけがをするおそれがあります。

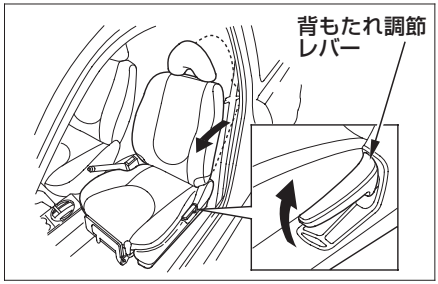
### 知 識

- この回転シートの最大許容荷重は100kgです。
  これを超えての回転操作は、故障の原因になります。
- 回転操作をするときは、ドアをいっぱいに開けてから行ってください。

助手席回転シートには、チャイルドシートを取り付けないでください。このシートでチャイルドシートを使用することはできません。

### ●介助される人の乗せかた

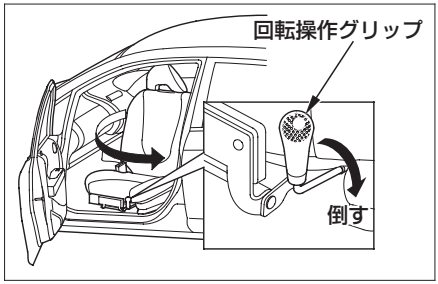
①シートが回転できるように、背もたれの角度を調節します。




**知 識**

●背もたれが倒れすぎていると、運転席と干渉してシートの回転ができなくなります。

②回転操作グリップを矢印の方向へ倒しシートを回転させます。
回転し始めたら、倒していたグリップを元の位置に戻しシートがロックする位置まで回転させます。




**⚠注意**

●後席に人が乗車しているときは、後席の人のつま先や手をはさまないように十分注意してください。

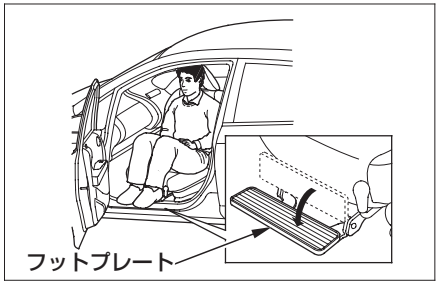
**アドバイス**

●シートを回転させた状態でドアを閉めると、ドアがシートにぶつかり故障や破損の原因になります。

**知 識**

●シートを回転させた後は、シートをゆすって確実に固定されていることを確認してください。

③介助される人をシートにすわらせ、フットプレートを前に倒して足を乗せます。




**⚠注意**

- 介助される人をシートにすわらせるときは、頭部やひじなどを車体にぶつけないように十分注意してください。

**アドバイス**

- フットプレートに必要以上に体重をかけたり、ステップの代わりにしないでください。フットプレートが破損するおそれがあります。

④回転操作グリップを矢印の方向へ倒しシートを回転させます。
回転し始めたら、倒していたグリップを元の位置に戻しシートがロックする位置まで回転させます。

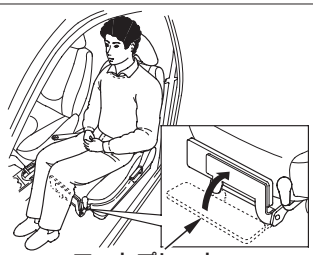
**⚠注意**

- 後席に人が乗車しているときは、後席の人のつま先や手をはさまないように十分注意してください。

**知 識**

- シートを回転させた後は、シートをゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- フットプレートに足を乗せるときは、シートを回転させるときに、車体にぶつからない位置に乗せてください。

⑤介助される人の足をフットプレートから降ろし、フットプレートを収納(折りたたむ)します。




**アドバイス**

- 走行中はフットプレートを収納(折りたたむ)してください。フットプレートに体重がかかりすぎて破損するおそれがあります。

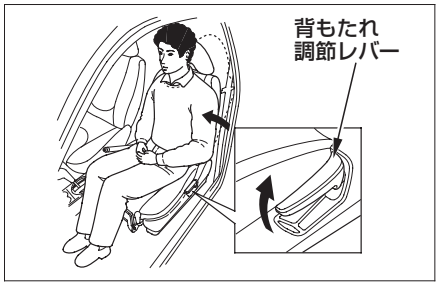
⑥介助される人にシートベルトを着用します。

**⚠注意**

- 介助される人が背もたれの角度を調節しているときは、ドアを閉めないでください。
  手をはさんでけがをするおそれがあります。

### ●介助される人の降ろしかた

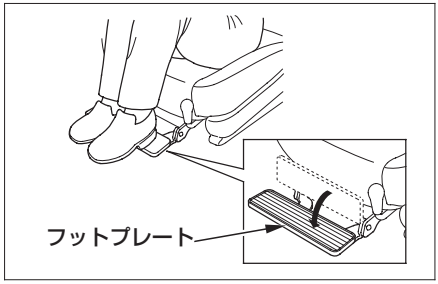
①シートベルトが外してあるのを確認し、背もたれの角度を回転できるように調節します。




**知 識**

●背もたれが倒れすぎていると、運転席と干渉してシートの回転ができなくなります。

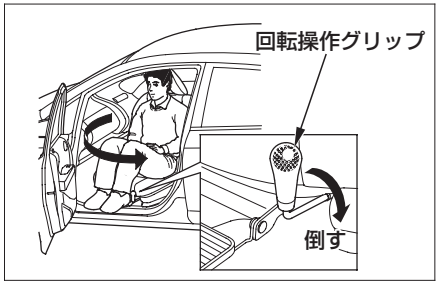
②フットプレートを前に倒して、介助される人の足を乗せます。




**アドバイス**

●フットプレートに必要以上に体重をかけたり、ステップの代わりにしないでください。フットプレートが破損するおそれがあります。

③回転操作グリップを矢印の方向に倒しシートを回転させます。
回転し始めたら、倒していたグリップを元の位置に戻しシートがロックする位置まで回転させます。



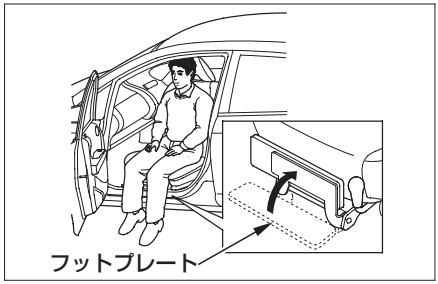

## ⚠注意

- 後席に人が乗車しているときは、後席の人のつま先や手をはさまないように十分注意してください。

### 知 識

- シートを回転させた後は、シートをゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- フットプレートに足を乗せるときは、シートを回転させるときに、車体にぶつからない位置に乗せてください。

④フットプレートから介助される人の足を降ろし、フットプレートを収納(折りたたむ)します。

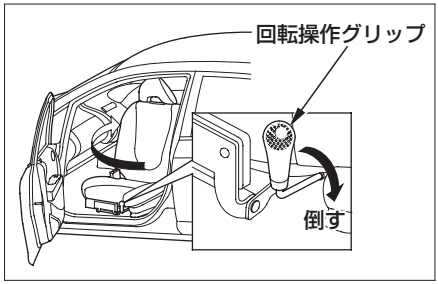


⑤介助される人をシートから降ろします。

**⚠注意**

- 介助される人をシートから降ろすときは、頭部やひじなどを車体にぶつけないように十分注意してください。

⑥回転操作グリップを矢印の方向へ倒しシートを回転させます。
回転し始めたら、倒していたグリップを元の位置に戻しシートがロックする位置まで回転させます。




**アドバイス**

- シートを回転させた状態でドアを閉めると、ドアがシートにぶつかり故障や破損の原因になります。

**知 識**

- シートを回転させた後は、シートをゆすって確実に固定されていることを確認してください。

HONDA

The Power of Dreams

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
Honda販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

30SFW610
00X30-SFW-6100

©2004　本田技研工業株式会社